

## 2章 東南アジア教育大臣機構（SEAMEO）による高等教育分野の

### 地域連携フレームワーク

#### 1. 東南アジア教育大臣機構の概要

東南アジア教育大臣機構（SEAMEO）は、東南アジア地域における教育、科学、文化に関する域内協力を推進することを目的として、1965年11月30日に設立された国際機関である。事務局は、タイのバンコクに置かれている。SEAMEOの設立は、ラオス、マレーシア、シンガポール、タイ、ベトナム共和国（当時：略称・南ベトナム）の教育大臣たちと、フィリピンのユネスコ国内委員会議長、アメリカの大統領特別顧問が出席してバンコクで開かれた会議において決定された。現在の加盟国は、ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー（ビルマ）、フィリピン、シンガポール、タイ、東チモール、ベトナムの11カ国である。これらの加盟国に加えて、オーストラリア、カナダ、フランス、ドイツ、オランダ、ニュージーランド、ノルウェー、スペインが準加盟国（Associate Member Countries）であり、公開・遠隔教育のための国際評議会（International Council for Open and Distance Education: ICDE）が提携機関（Affiliate Member）、日本が連携国（Partner Country）となっている。この他にも、さまざまな国がSEAMEOに対して協力を行っており、特に近年では韓国や中国が積極的な姿勢を示している。

SEAMEOは、「能動的であり、自助的であり、戦略的な政策を推進し、国際的に認知された地域機関として、より質の高い生活を実現するための教育、科学、文化の諸領域で域内における相互理解と協力を推進すること」<sup>1</sup>をビジョンとして掲げている。こうしたビジョンを実現するためにSEAMEOでは、東南アジア地域内におけるネットワークとパートナーシップを構築し、政策立案者や専門家たちが意見交換や情報の共有を行うための知的フォーラムの場を提供するとともに、加盟国の開発に資するための人材育成や調査研究を行っている。SEAMEOが取り組んでいる事業領域は、主に次の7つの分野である。(1) 農

---

<sup>1</sup> SEAMEO のウェブサイト

([http://www.seameo.org/index.php?option=com\\_content&task=view&id=25&Itemid=33](http://www.seameo.org/index.php?option=com_content&task=view&id=25&Itemid=33))

[2009年2月10日閲覧] より引用。本稿におけるSEAMEOの基礎的な情報については、同ウェブサイトを参照した。

業と天然資源、(2) 文化と伝統、(3) 情報コミュニケーション技術 (ICT)、(4) 言語、(5) 貧困削減、(6) 予防的な健康教育、(7) 教育における質と公正。なお、SEAMEO の予算は、加盟国からの拠出金に加えて、準加盟国、連携国ならびに関係諸国からの支援によって賄われている<sup>2</sup>。

SEAMEO には、本部に加えて 15 の専門機関（センター）が設立されている。各センターの予算や管理運営に関する決定は、加盟各国の幹部級の教育行政官たちによって構成される理事会が行っている。また、センターの運営経費やプロジェクト経費は、基本的にそれらの機関が所在する国（ホスト国）からの拠出金によって賄われているが、特定のプロジェクトなどに関しては他の資金源から供出されることもある。本稿では、15 のセンターのなかでも、東南アジア地域の高等教育分野におけるネットワーキングや基準設定（standard setting）を積極的に行っている「SEAMEO 高等教育開発地域センター（SEAMEO Regional Centre for Higher Education and Development）」の事業に焦点を当て、特に同センターが近年取り組んでいる重要課題などについて概説する。

## 2. SEAMEO 高等教育開発地域センター

### **(SEAMEO Regional Centre for Higher Education and Development: RIHED) <sup>3</sup>**

SEAMEO 高等教育開発地域センター (RIHED) は、1959 年に国連教育科学文化機関 (UNESCO) と国際大学協会 (IAU) がフォード財団の支援を受けて設立した高等教育開発地域研究所 (Regional Institute of Higher Education and Development: RIHED) がその起源であり、1970 年になってインドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、マレーシア、ベトナム、ラオスの 7 カ国を加盟国としてシンガポールに正式に開設された。その後、1980 年代半ばから事業が停滞し出したことを受けて、新たにタイ政府がホストとなってタイのバンコクに仮の施設を開設し、1992 年には SEAMEO の専門機関（センター）として正式に位置づけられることになった。

---

<sup>2</sup> 加盟国の拠出金の額は、アジア開発銀行に対する各国の拠出金の基準に基づき算出されている  
<sup>3</sup> 本節ならびに次節の SEAMEO 高等教育開発地域センター (RIHED) の取り組みに関する記述は、主に Supachai (2009) ならびに RIHED のウェブサイト (<http://www.rihed.seameo.org/>) の情報に依拠している。

RIHED の事業目的は、SEAMEO 加盟国が各国の高等教育の効率性と効果を高めるための支援を行うことにあり、人的資源開発の広範な分野を含めた高等教育政策の策定や高等教育行政の管理運営に対する助言・技術支援、専門教育の実施、政策志向的な調査研究の推進などを行っている。また、地域センターとして、東南アジア地域における高等教育に関する情報や調査研究の成果などを、域内ならびに域外に伝える役割も担っている。さらには、東南アジア地域の高等教育機関・研究機関がネットワークを構築する際の支援なども行っている。

近年の RIHED が優先課題として設定している領域は、主に次の 7 領域である。すなわち、①高等教育行政における管理運営、②質保証とベンチマーキング、③情報コミュニケーション技術の活用、④効果的な教授法（Learning-Teaching Methodology）、⑤研究能力の向上、⑥私的部門ならびに産業との連携の推進、⑦地域的なネットワークや集合体への関与（たとえば ASEAN、大メコン川流域圏（GMS）、東アセアン成長地域（BIMP-EAGA）など）であり、高等教育の質的な向上や高等教育市場の国際化ならびに多様化など、東南アジア地域においても欧米や東北アジアなどの高等教育市場の動向と基本的に共通した課題を抱えていることが窺える。

特に高等教育の質に関する領域で、RIHED は質保証（Quality Assurance）の基準や方法に関する地域的なガイドラインや枠組みを開発する事業に取り組んでいる。質保証に関する問題は、東南アジア地域内における高等教育の連携を調整・促進するうえで非常に重要なものであると捉えられている。そのため、RIHED は域内のさまざまな関係機関との連携を強化している。たとえば、そうした関係機関の中でも、高等教育の質保証機関の国際的ネットワーク（International Network for Quality Assurance Agencies in Higher Education: INQAAHE）の地域ネットワークであるアジア太平洋質保証ネットワーク（Asia-Pacific Quality Network: APQN）は、同ネットワークの加盟国における質保証や単位互換制度の開発などに対して助言や専門知識を提供しており、RIHED も積極的に情報の共有などを進めている。また、ASEAN University Network による Quality Assurance（AUN-QA）も、東南アジア地域内での質保証のガイドラインを作成しており、RIHED としても連携を図ろうとしているようである。

東南アジア地域では、高等教育の質保証に関して域内の格差が顕著である。インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシアなど、すでに国内での質保証のメカニズムを独自に開発・確立している国々がある一方、カンボジア、ミャンマー（ビルマ）、ラオスなどでは質保証のための制度設計が十分に進んでいない状況にある。こうした域内格差は、東南アジア地域における共通の質保証のフレームワークを開発する上で大きな障壁となっている。こうした状況に対して、RIHEDでは、域内のサブ地域（GMSなど）における質保証に関わる大学評価機関のネットワーク形成を支援するといったアプローチを採っている。東南アジア地域の全体的なネットワークではなく、サブ地域でのネットワーク化を推進する理由としては、域内格差の存在が最も大きいと思われる。また、RIHEDによる質保証ネットワークへのアプローチは、既存の国際的ネットワーク（INQAAHE）や地域的ネットワーク（APQN）には、同地域のすべての国が参加しているわけではないといった事情<sup>4</sup>や、AUN-QAが域内の少数の主要大学（AUN加盟大学）でしか利用されておらず、大学や研究機関レベルでの質保証に主な焦点を合わせているといった状況からも、影響を受けていると考えられる。

2008年7月には、RIHEDはマレーシア認証機関（MQA）との緊密な協力のもとに、マレーシアのクアラルンプールで第1回ASEAN質に関する円卓会議（ラウンドテーブル）を共同開催した。この会議において、高等教育の調和化（harmonization）を進めるうえで質保証が重要な役割を果たすことが確認され、質保証に関する協調や情報の共有化を促す「クアラルンプール宣言（Kuala Lumpur Declaration）」が採択された。また、この会議では、東南アジア諸国の大学評価機関・認証機関のネットワークとしてASEAN質保証ネットワーク（ASEAN Quality Assurance Network: AQAN）を創設することが合意された。このネットワークを通して、各国の関係機関がお互いの経験（good practice）を学び合うとともに、ASEANとしての質保証の枠組みの開発、能力開発に関する連携の促進、各国の資格を国際的に認証し合うことや人の流動性の高まりなどを促進することが、期待されている。

---

<sup>4</sup> 2009年2月現在、APQNの正会員（Full Member）となっているのは、インドネシア、カンボジア、タイ、マレーシア、フィリピン、ベトナムの大学評価機関である。また、ラオスの教育省高等・技術・職業教育局が準会員（Associate Member）となっている。APQNのウェブサイト（<http://www.apqn.org/>）〔2009年2月19日閲覧〕を参照した。

なお、高等教育の質保証のための枠組み作りに関しては、RIHED の他にも SEAMEO の各センターで特定分野に関する取り組みを展開している。たとえば、SEAMEO 遠隔教育地域センター (SEAMEO Regional Open Learning Centre: SEAMOLEC) は、加盟諸国における遠隔教育の質的な向上を促すために研修や調査研究を行っている。また、東南アジア農業教育・研究地域センター (Southeast Asian Regional Center for Graduate Study and Research in Agriculture: SEARCA) では、SEAMEO 加盟諸国における農業教育分野の質的な向上を促すための枠組み作りなどを行っている。

### 3. 東南アジアにおける高等教育の調和化 (harmonization)

近年、東南アジア諸国連合 (ASEAN) 諸国の間では ASEAN 共同体を構築することの可能性について議論が交わされており、ASEAN の社会文化面における共同体を形成していくうえで教育分野が果たすべき役割は大きいという認識が共有されつつある。特に、高等教育分野は、ASEAN のアイデンティティ構築や ASEAN 共同体の多様性を促進するに際して重要な役割を果たすと考えられる。また、語学教育、職業技術教育、学校でのリーダーシップ能力の強化などを通して、教育セクター全体の質の向上を図る中で高等教育分野も発展することが期待されている。

こうした ASEAN の状況を背景として、RIHED は 2007 年に SEAMEO に対して「東南アジアにおける高等教育の地域統合のための構造的枠組み—共通空間 (common space) への道—」と題する提案を行った。この提案では、高等教育の統合と調和化のための地域的なメカニズムや枠組みの重要性が強調された。その際、次の 5 点について、特に注意する必要があると指摘された。それらは、①ASEAN の質的な枠組みおよびカリキュラムの開発、②学生の流動性、③リーダーシップ、④e ラーニングと遠隔学習、⑤ASEAN の研究クラスター、であった。さらに、2008 年 11 月には、東南アジア地域における高等教育の地域化を考えるための会議を RIHED が主催した。日本の国際交流基金の支援を受けて開催されたこの会議では、「高等教育の共通空間 (higher education common space)」をどのように構築するかといったことが議論された。この会議に先立っては、5 カ国 (マレーシア、インドネシア、フィリピン、タイ、ベトナム) での事前ワークショップも開催され、各国の公的部門、民間部門、研究部門から利害関係者たちが参加して、さまざまな議論が交わされ

た。これらの事前ワークショップならびに会議を通して確認された、東南アジアにおける将来の高等教育の調和化プロセスに関する主な論点は、表 1 に示す通りである。

表 1：東南アジアにおける将来の高等教育の調和化プロセスに関する主な論点

論点	成果
1. 高等教育の理想形	<ul style="list-style-type: none"> <li>参照軸となる、あるいは文化の多様性と国民性への強い認識に適合しうる、システムもしくは分野</li> </ul>
2. 優先分野（ガイドラインまたは枠組みの開発）	<ul style="list-style-type: none"> <li>質保証のガイドライン</li> <li>教育と研究の連関</li> <li>単位互換システム</li> <li>流動性のシステム</li> <li>生涯学習システム</li> </ul>
3. 主要関係者の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>政府：意識向上と優先分野の選定</li> <li>高等教育機関：政府による優先分野の選定、枠組み開発、ガイドライン開発に対する支援</li> <li>雇用部門：政府と高等教育機関による優先分野の選定作業に対する支援</li> </ul>
4. 国際機関（ASEAN または SEAMEO）の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>加盟国政府間での議論開始の促進</li> <li>情報の普及</li> <li>加盟国間での資金調達活動に関する調整</li> </ul>
5. 主な利点	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生の流動性の向上</li> <li>質・コスト両面での学生のアクセスや選択肢の拡大</li> <li>高等教育機関間の協力（共同プログラム、学術研究等）に関する機会の拡大</li> <li>地域人材プールの拡大と人的資本への共同投資の機会の拡大</li> <li>東南アジア地域や ASEAN レベルでの高等教育の展開がより多くの留学生を惹きつける</li> <li>その他の高等教育分野との将来の協調を容易にする</li> <li>域内の理解を深める</li> </ul>
6. 今後のシナリオ	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生が受入機関／国に 1 年滞在</li> <li>雇用の流動化</li> <li>多文化型の職場</li> <li>連携の緊密化（知識の創造と雇用）</li> <li>各国からの留学生にも同等の質の教育を提供</li> <li>システム内での成人学習者の増加</li> <li>カリキュラムの改訂</li> </ul>

出所：Supachai (2009)

#### 4. 結び

本稿で概観したように、SEAMEO では RIHED を中心として東南アジア地域における高等教育分野の地域連携フレームワークの構築に取り組んでいる。特に、域内の高等教育市場の国際化が進む中で、加盟各国の高等教育機関の国際的競争力を高めたり、学生の流動性を向上させたりする上で、質保証の問題が最優先課題の一つとなっている。そうした中、既存の国際的・地域的な質保証ネットワークとも連携しつつ、特にサブ地域レベルでのフレームワークを構築していくことが、RIHED の目指している方向性の一つであると見受けられる。こうした方向性が果たしてどの程度の実効性を伴うものとなるかは、今後の RIHED ならびに SEAMEO 全体と加盟各国の間に、どれだけ緊密な協調関係が構築されるかにかかっていると言えるのではないだろうか。

#### 【参考文献】

Supachai, Y. (2009). “SEAMEO RIHED and Higher Education Harmonization”,  
*Proceedings for the International Seminar on Skills Development for the  
Emerging New Dynamism in Asian Developing Countries under Globalization.*  
January 23-25, 2009. Bangkok, Thailand. pp.155-172.